

おはようございます。今回から少し趣向を変えて、スライドを使いながら話を進めます。この方がよりわかりやすく、また皆さんの頭に話の内容が残るやすくなることと思います。

さて、今日の話は、「人生100年時代」についてです。これは、ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授が書いた「ライフシフト」という本です。

彼女はこの本の中で、人の寿命が100年の時代に来ていると述べています。日本の場合、現在11歳の子どもの半分は107歳まで生きると分析しています。現在でも日本は世界一の長寿国であり、女性の平均寿命は90歳近くになっています。皆さんの多くも、おそらく100歳まで生きることになるでしょう。

そういう時代に必要な力は、学ぶ力、もっとわかりやすいことばで言えば、「学び直す力」とグラットン教授は述べています。すなわち、若い頃に学んだ知識や技能が古くなって役立たなくなった時に、再度学び直しを行って、次の段階に適應する力を身につける力が必要だということです。喩えて言えば、コンピューターがバージョンアップするように、我々も自分の知識や技能を更新する必要があるということです。

しかし、コンピューターがバージョンを更新する時でも、基本OSは変わりません。その基本OSこそが、皆さんがまさに今学んでいる教科内容だと思います。高校のカリキュラムは「広く深く」基本的な学問の内容を学べるように設計されています。これらの内容をしっかりと収めることで、将来の学び直しに対応できる力を身につけることができると私は思います。

一方、AIすなわち人工知能の発達が著しく、コンピューターが人間に代わって様々なことを担えるようになってきました。将棋や囲碁の名人がAIにかなわなくなっています。今後は、車の自動運転をこなすAIや無人のコンビニなど、人間のやってきたことの多くがコンピューターに取って代わられるようになるでしょう。

そのような時代を生きていくために、我々が必要とされる力について、「東大ロボプロジェクト」の責任者であった新井紀子教授が、その著書「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」に書いています。

新井教授によると、人間にできてAIにはできないこととは、「読解する」ことです。つま

り、AI は意味がわかって動いているのではなく、膨大なデータの蓄積によって動いているだけであるから、読解力すなわち、論理的な文を読み解き、意味を理解する力は持っていないわけです。読解力は人間だけにあり、まさにその力を磨いた人こそが、これからの時代に必要とされることになるのです。

先日、早稲田大学政治経済学部が大学入学共通テストで、数学を必修にすると発表しました。数学は論理的な思考力を育てる学問です。文系でも数学が必要だと早稲田大学が判断した理由は、おそらく論理的な読解力をもった人材がこれからの世の中に必要だということだと思います。言い換えると、現代社会においては、文系理系の枠にとらわれない発想力が問われているということでしょう。

その意味において、文系理系の枠を超えて、新しい発想で次々と世の中を変えるモノを作り出した人がいます。スティーブ・ジョブズ、アップルの創始者であり、iPhone や iPad を世の中に出し、全編 CG で描いた映画製作の創始者でもありました。残念ながら、7年前、56歳の若さでこの世を去りました。

最後に、彼の残した言葉を紹介します。それは、**Stay hungry, Stay fool** というものです。直訳すれば、「腹を空かせたままにいる、愚かであり続けよう」でしょうか。彼が言いたいことは、他人の言うことを鵜呑みにせず、ずっと探究心を持ち続けて、自分が納得するまで学び続けよう、ということだと私は思います。

この夏、少し時間のゆとりがあるこの時期に、自分の壁を乗り越える挑戦をしてほしいと思います。今日の話が、皆さんの意欲を喚起するものになればと期待しています。この夏の皆さんの飛躍を祈って、終業式の話とします。